財団法人 中東調査会
The Middle East Research Institute of Japan
المعهد الياباني لبحوث الشرق الأوسط

かわら版

2007年7月18日
No.166

―湾岸・アラビア半島地域ニュース―

サウジアラビア：イラクの外国人戦闘員　　（7月16日付「シャルク・ル・アウサト」紙）

1. 米軍当局者によれば、イラクで戦闘に参加している外国人戦闘員のうち、45%がサウジ人、15%がシリア人及びレバノン人、10%が北アフリカ系であり、米軍としてイラクで拘束している外国人135名のうち、約半数がサウジ人である。又、こうしたサウジ人のうちの半数は自爆テロを志向する者たちである。

2. イラクのマリキ首相顧問であるアスカリ議員は、「サウジ当局は、バグダードを意図的に混乱させている」、「サウジの宗教指導者は、シーア派に対する闘争をけしかけ、政府は特に南部のシーア派地域の過激分子に資金を提供している」、「チェイニー米副大統領のサウジ訪問の際、イラクに向かう戦闘員を取り締まるよう要請したが、成果は出ていない」等と非難した。

3. この批判に対しサウジ当局者は、「シャルク・ル・アウサト」紙の取材に答えて、「この数字は不正確であり誇張されている。サウジ人戦闘員は減少しつつあり、我々の見るところ、イラクで戦闘行為を行っているのは、主に旧イラク軍兵士である」、「宗教者が過激グループに関わらないように目を光らせている」等と述べて反論した。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。
ご質問・お問合せ先　財団法人中東調査会　TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799